

The Big 6
Regular
Concert

東京六連奮闘!

東京六大学合唱連盟 第71回定期演奏会

令和4年(2022) 5月1日(日)



東京六連70年の歴史を絶やすわけにはいかない

加藤良一 令和4年(2022) 5月7日

東京六大学合唱連盟第71回定期演奏会が、東京藝術劇場コンサートホールで開催されました。

この大会は第69、70回と2年連続で中止となり、今回は満を持しての開催となりました。惜しむらくはコロナ禍のためステージ上の人数が制限され、全員がオンステできず合同ステージが見送られてしまったことです。合同演奏として、委嘱初演、谷川俊太郎作詩/田中達也作曲**男声合唱**とパーカッションのための『この日を捕えよ』を山脇卓也指揮で演奏予定となっていました。

さらに惜しまれるのが、法政大学アリオンコールがメンバー不足で参加できなかったことです。残念ながら「五連」となってしまいました。苦衷察するに余りあります。

東京六連

男声六連は、東京所在の6つの大学で構成する連盟で、通称「六連」と呼びますが、混声合唱の東京六大学混声合唱連盟と区別するため、「男声六連」「男六」とも呼び、関西と区別するために「東京六連」とも呼びます。現在どの大学もコロナ禍での活動の厳しさに耐えながら歌い続けており、そのような中、今年はなんとか開催に漕ぎつけようと大いに意気込んだことと思います。

東京六連は、Wikipediaによると、昭和26年(1951)、NHKラジオにて東京六大学野球連盟の校歌、応援歌を放送するために、各校合唱団が競演したことがきっかけで結成されました。第1回演奏会は、昭和27年(1952)日比谷公会堂で開催され、合同演奏ではJ.H.Stuntz作曲「歌え若人」、日本古謡「今様」が歌われています。以後、年1回のペースでほぼゴールデンウィーク期間中に開催されてきました。

特色ある六団体 []内は大学の創立年

□東京大学コールアカデミー： [東京大学 明治10年(1877)創立]

大正9年(1920)創設。宗教曲を中心とした西洋古典音楽を主に演奏し、コンクールには出ないという方針を掲げています。六大学の中で唯一「校歌」がないことでも知られています。エール交換では大学を代表する「東京大学運動会歌〈大空と〉」を披露しています。

□明治大学グリークラブ： [明治大学 大正9年(1920)創立]

昭和35年(1960)混声合唱団から独立して創設。委嘱初演も積極的に行っており、多田武彦作品では『雨』、『三崎のうた』、『わがふるき日のうた』などを演奏しています。

□早稲田大学グリークラブ： [早稲田大学 大正9年(1920)創立]
明治40年(1907)創設。同時に早稲田大学創立25周年記念の校歌「都の西北」が生まれました。

□立教大学グリークラブ： [立教大学 大正11年(1922)創立]
大正12年(1923)創設。来年2023年はちょうど100周年を迎えます。現在は混声、男声、女声の3種の合唱ができる特色ある合唱団です。

□慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団： [慶應義塾大学 大正9年(1920)創立]
明治34年(1901)創設。団名は偉大な作曲家リヒャルト・ワグナーに因んだもの。(※福澤諭吉が安政5年(1858)に開いた蘭学塾が起源) 総合大学の学生音楽サークルとしては最も古いといわれています。

□法政大学アリオンコール：<今回の演奏会是不参加> [法政大学 大正9年(1920)創立]
昭和3年(1928)創立。現代邦人作家の委嘱作品を多く採り上げたことでも有名です。昭和40年(1960)代から田中信昭先生の指導のもと、日本の現代音楽曲のアリオンともいわれてきた異色の合唱団です。しかし、現在は男性が集らずやむなく混声で活動が続けるという苦渋の選択を強いられています。かなり以前から団員減少の兆候は見ており、メンバーの卒業とともにますます縮小しています。OB会も団の存続に力を注いでいますが、なかなか思うようにはいきません。

平成25年(2013)には現役を励まし盛り上げるため、現役に加えOBの関係団体がジョイントした、ARIONファミリーコンサートが開催され、筆者が団長を務める男声合唱団コール・グランツも賛助出演しました。



アリオンコールの名称は、その歌声があらゆる生き物に安らぎを与えたという古代ギリシャの詩人・音楽家アリオンに由来しています。アリオンの歌のあまりの美しさに魚が海の深みからあがってきて耳を傾ける、またある時は海に落とされ生命を落とすところを、歌に感動したイルカに助けられという逸話があります。男声合唱団アリオンコールの復活が望まれます。

コロナ禍乗り越え集う

今回のオンステは、東大コールアカデミー8人、明大グリー18人、早稲グリー35人、立教グリー14人、慶應ワグネル36人と、どの団も従来より人数が減っています。ただし、パートバランスはとりあえず整っているのがさいわいでした。大学男声合唱団が徐々に衰退してきたのはコロナ禍が始まる前からの現象で、今後大学合唱団をどう維持するかとても悩ましい大きな問題です。

過去には平成18年(2006)に「男声合唱を盛り上げよう」との呼びかけて、早稲田大学を中心として、麗澤大学、お茶の水女子大学、東京外語大学、学習院大学、東京学芸大学、武蔵工業大学(現東京都市大学)、東京大学、東京医科歯科大学から有志が集まった〈Project GO!〉という試みもありました。



掻い摘んでご紹介しますと、16年前すでに「大学グリークラブの衰退が叫ばれて久しい」といわれていました。合唱の名門大学であっても、高校時代から合唱を経験している人ばかりが入団してくるわけではありません。少なからずいる初心者を一定のレベルに短期間で引き上げるのは容易なことではないのです。さらに、一所懸命に育成したとしても4、5年すれば卒業してしまいます。このような状況が長く続けば定演どころか存続自体危ぶまれるところも出てきます。比較的規模が大きく、伝統や歴史があるところは、OBの組織力やバックアップが期待できますが、それもままならない学校ではなすすべがないのです。

そこで、このような窮状に手を拱いてばかりでは何も解決しない、何か手はないかと立ち上がった学生たちがいました。それが、名付けて〈Project GO!〉(略してプロゴ)、G=Glee、O=Orchestra、男声合唱とオーケストラを融合させようというところからのネーミングです。

プロゴは、そもそも平成15年(2003)5月に行われた東京六連の合同演奏でポップスを演奏したことがきっかけとなって発足しました。しかし、自由参加のため当初から難問にぶつかり、運営は窮地に追いやられましたが、立ち上げた以上あと戻りはできないと、当時流行っていたNHKの「Project X」をもじって命名し、成功に向けてお互いに鼓舞し合ってコンサートを実現させました。



詳しくは、「**大学グリーを救えるか Project GO!**」↓をご覧ください。

www.max.hi-ho.ne.jp/rkato/Document/music/m70 project go.htm

本題に戻ります。第71回定期演奏会のプログラムは次の通りです。

PROGRAM

- ❖ エール交換
 東京大学音楽部コールアカデミー
 明治大学グリークラブ
 早稲田大学グリークラブ
 立教大学グリークラブ
 慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団
- ❖ 1st Stage 東京大学音楽部コールアカデミー ■指揮／酒井雅弘
Mass for Three Voices (三声のミサ)
 ■作曲／William Byrd
- ❖ 2nd Stage 明治大学グリークラブ ■指揮／佐藤賢太郎
無伴奏男声合唱のための『カウボーイ・ポップ』
 ■作詞／寺山修二 ■作曲／信長貴富
- ❖ 3rd Stage 早稲田大学グリークラブ ■指揮／今井啓誓（学生）
16分で分かる！平成J-POP史
 ■編曲／田中達也 ■伴奏／久田菜美
- ❖ 4th Stage 立教大学グリークラブ ■指揮／田中豊輝
National Anthem a la carte
 ■編曲／田中達也 ■ピアノ／内木優子
- ❖ 5th Stage 慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団 ■指揮／宮本益光
男声合唱とピアノのための組曲『ハレー彗星独白』
 ■作詩／大岡信 ■作曲／鈴木輝明 ■ピアノ／高田恵子

恒例のオープニング「エール交換」にはじまり、各校の特長を生かしたプログラムが演奏されました。

♠ 1st Stage 〈東大コールアカデミー〉

『Mass for Three Voices(三声のミサ)』は、16世紀末のウィリアム・バード作曲のカトリックミサ曲、上からContus、Tenor、Bassusの三声で構成されています。8人編成に適した選曲でした。

♣ 2nd Stage <明大グリーン>

『無伴奏男声合唱のための『カウボーイ・ポップ』』は、詩人寺山修二独自の世界が展開された曲集です。平成16年(2004)混声版が初演され、翌年、第54回東京六連定演にて早稲グリーンにより男声版が演奏されています。

♣ 3rd Stage <早稲グリーン>

『16分で分かる! 平成J-POP史』は、男声合唱で振り返る平成の名曲たちと題し、美空ひばりの「川の流れるように」、尾崎豊の「I LOVE YOU」、森山直太朗「さくら(独唱)」、DA PUNPの「U.S.A」などヒット曲12曲をメドレーにしたもの。どの曲も若々しい振り付けで動きのある楽しいステージ作りとなっていました。

♣ 4th Stage <立教グリーン>

『National Anthem a la carte』は、世界の国歌を集めたもの。「君が代」に始まり、スペイン語(ペルー)、ドイツ語(ドイツ)、フランス語(フランス)、オーストラリア(英語)、ガーナ(英語)、アメリカ(英語)と4言語をみごとに駆使しての演奏でした。外国語については、学生たちがいろいろと研究したといえます。

♣ 5th Stage <慶應ワグネル>

『男声合唱とピアノのための組曲『ハレー彗星独白』』は、大岡信^{まこと}の詩をもとにした組曲。平成9年(1997)、早稲グリーンによって初演されています。「日本語のリズム(呼吸)、音(おん)としての特徴を音楽素材の一部とする試みにより、音と言葉のスリリングな関係が形成され、太古から未来へと時空を貫いて流れる謎めいたロマン、宇宙的なファンタジーが描き出される」。なかなか難しい曲です。

コロナ禍もだいぶ収まりつつあります。来年の第72回大会には六大学が揃ってオンステできることを願わずにはられません。また、各校OBによる「東京六大学OB合唱連盟演奏会」も平成11年(1999)から開催しており、12回目を迎える今年は、7月17日(日)東京芸術劇場コンサートホールで行われる予定です。

OB合唱団も現役と同じようにメンバーが集らず苦戦している大学もあります。大会の成功を祈ります。

★東京六大学合唱連盟サイト★

ホームページ：<https://tokyobig6.jimdofree.com/>

Twitter：<https://twitter.com/tokyobig6ren>

[慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団](#)

[東京大学音楽部コールアカデミー](#)

[法政大学アリオンコール](#)

[明治大学グリーンクラブ](#)

[立教大学グリーンクラブ](#)

[早稲田大学グリーンクラブ](#)

☆東京六大学OB合唱連盟☆

慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団

東京大学音楽部OB合唱団アカデミカコール

法政大学アリオンコールOB会・男声合唱団オールアリオン

明治大学グリークラブOB会合唱団駿河台倶楽部

立教大学グリークラブOB男声合唱団

早稲田大学グリークラブOB会・稲門グリークラブ

Back

「音楽／合唱」TOPへ戻る

Home

「ホームページ」表紙へ戻る